

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第3週（1月18日～1月24日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第2週の0.63から第3週の1.79と急増しています。高知市、須崎、中央東、幡多、安芸で増加しています。迅速検査ではインフルエンザA型73%、B型27%となっています。感染力が大変強いので今後も手洗い、うがい及び咳エチケットの励行による感染予防をしてください。病原体検出情報では第1週のInfluenza virus A H3 NTに引き続きInfluenza virus A H1pdm09が検出されています。

インフルエンザの予防対策

流行開始の目安である1.00を上回りました。これからの時期は、気温が低い状態が続くとともに空気も乾燥し、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期となります。

インフルエンザの流行期は、例年12月下旬～3月頃です。

予防対策

- ※発熱や咳などのインフルエンザ様症状のある方は、マスクを着用し、まわりの方につさないよう咳エチケットを心がけましょう。
- ※外出が必要な場合には、人混みは避け、外出後は手洗いを徹底しましょう。マスクを着用することは防護策の一つと考えられます。
- ※呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方や妊婦は重症化する例もありますので、積極的に感染予防を心がけましょう。
- ※インフルエンザ様症状と思われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第2週の9.10から第3週では9.70とほぼ横ばいですが、須崎、中央西、中央東で増加し、幡多、須崎では注意報値を超えています。また、定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルスが12例、ロタウイルスが15例報告されています。基幹定点からは14例報告され、病原体検出情報ではNorovirus GII NT、Rotavirus group A G8が検出されています。

毎年この時期からノロウイルスなどの感染性胃腸炎の報告数が増えてきます。この病気は腹痛、嘔吐、下痢、発熱を主な症状とし、冬場に流行する代表的な感染症です。乳幼児に好発し、1歳以下の乳児では症状の進行が早いのが特徴です。37～38℃の発熱がみられることもあり、年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられます。特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。予防法で最も大切なのは手洗いです。排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

感染症予防の基本は、

★★★手洗いから★★★

調理時や食事前、トイレの後は石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。

○百日咳に注意して！

定点医療機関当たりの報告数は第2週の0.00から第3週では0.10となっています。須崎では警報値を超え、高知県全域では注意報値を超えています。

患者の咳やくしゃみ、唾などのしぶきに含まれている百日咳菌を吸い込むことによって感染しますので、「咳エチケット」に心がけてください。感染予防のためにワクチン接種をおすすめします。

ワクチンは生後3ヶ月から接種可能ですので、対象者の方は、かかりつけ医と相談してください。

○伝染性紅斑（リンゴ病）に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第2週の0.10から第3週では0.27と急増しています。中央西、高知市、幡多で増加し、中央西では注意報値を超えています。

幼少児（2～12歳）に多いですが、乳児、成人が罹患することもあります。潜伏期は4～15日。顔面、特に頬部に境界明瞭な平手で頬を打ったような紅斑が突然出現します。つづいて四肢に対側性にレース様の紅斑が出現します。消退後さらに日光照射、外傷などによって再度出現することがあります。発疹の他に発熱、関節痛、咽頭痛、鼻症状、胃腸症状、粘膜疹、リンパ節腫脹、関節炎を合併することがあります。予後は通常、良好です。但し、溶血性貧血の患者では、汎血球減少を起こすことがあります。妊婦の場合には、胎児水腫又は流産を起こすことがあります。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

第3週は基幹定点から7例、定点医療機関からのホット情報で7例、学校欠席者情報収集システムでは11例の報告がありました。

マイコプラズマ肺炎の定点当たりの報告数が8月上旬から増えています。10月上旬からはホット情報でも報告数が増加していますので注意しましょう。

マイコプラズマ肺炎の発生動向とその予防対策

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*) という細菌によって引き起こされ、激しい乾いた咳、発熱、全身倦怠感が主な症状で、学校、幼稚園、保育園、家庭等で地域的に集団発生すると言われています。好発年齢は、6～12歳の小児であり、小児では発生頻度の高い感染症の一つです。潜伏期は2～3週間とされ、飛沫で感染します。異型肺炎像を呈することが多いです。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。重症肺炎となることもありますので注意が必要です。予防方法としては、手洗い・うがい・マスクの着用による一般的な予防方法の励行と早期の医療機関受診を心がけてください。

マダニの感染症(日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病)、冬でも注意！

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)1例の届け出が第4週にありました。

これらの感染症はマダニが媒介する感染症です。

マダニの活動が盛んな時期は春から秋ですが、今回のように冬期でも患者の発生がみられることがあります。

感染予防にはマダニに噛まれないようにすることが重要です。

森林や草むら、藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、マダニに噛まれる事を予防して下さい。

マダニに噛まれた場合も痛みがなく気がつかない場合が多いといわれています。

マダニは、人や動物に取りつくとき皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日から10日間以上かけて吸血します。

吸血中のマダニを無理に引き抜こうとすると、マダニの体液が逆流したり、マダニの一部が皮膚内に残って化膿する場合がありますので、医療機関を受診し、処置してもらってください。

発熱等の症状がでたとき

野山に入ってからしばらくして(数日～2週間程度)発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと(ダニに刺されたこと)を申し出て下さい。

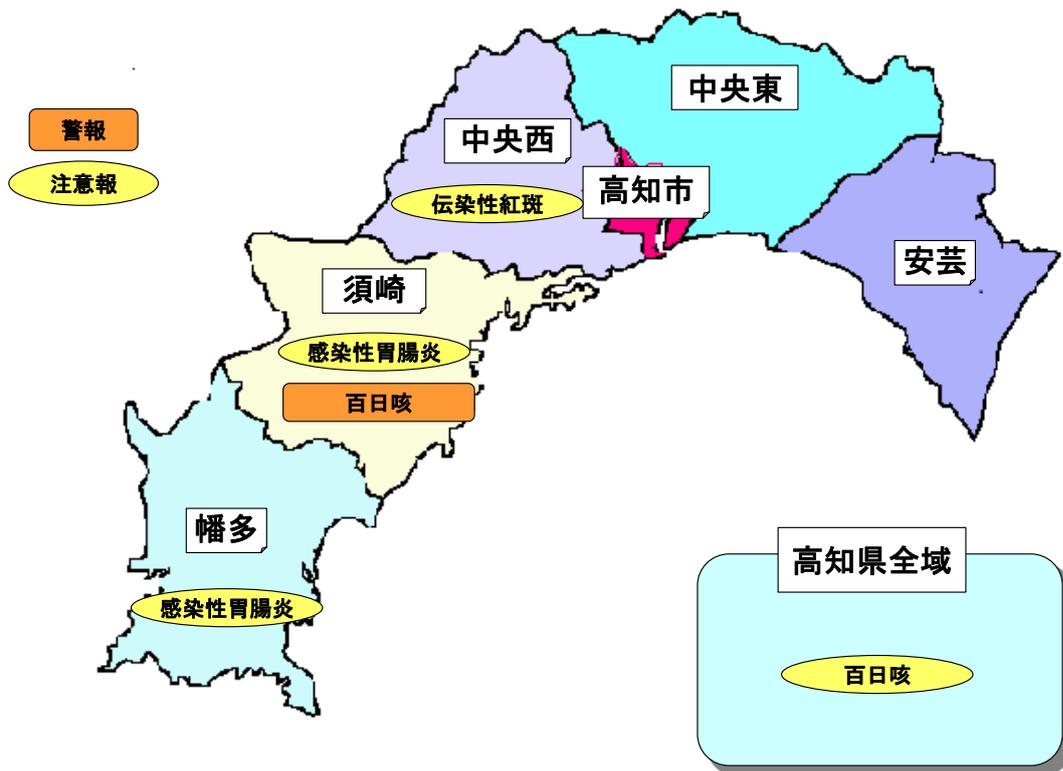
★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患）
 3週（1月18日～1月24日）

↑ : 急増
 ↗ : 増加
 → : 横ばい
 ↘ : 減少
 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	9.70	須崎、中央西、中央東で増加し、幡多、須崎で注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	2.67	高知市、幡多、中央西、須崎で増加しています。
RSウイルス感染症	↑	1.87	中央東、高知市、幡多、安芸、須崎で増加しています。
インフルエンザ	↑	1.79	高知市、須崎、中央東、幡多、安芸で増加しています。
流行性耳下腺炎	↘	0.50	安芸、須崎で増加しています。

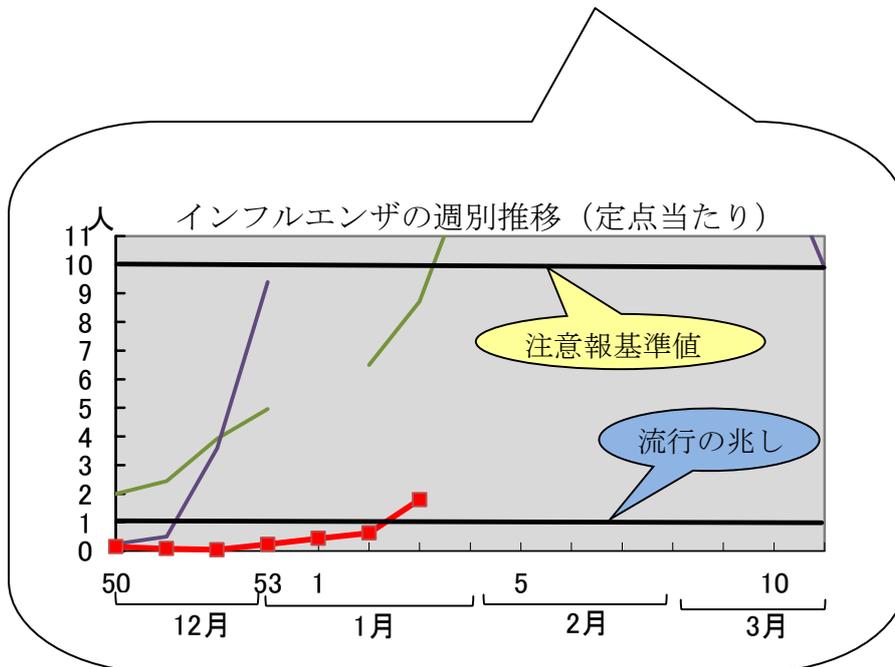
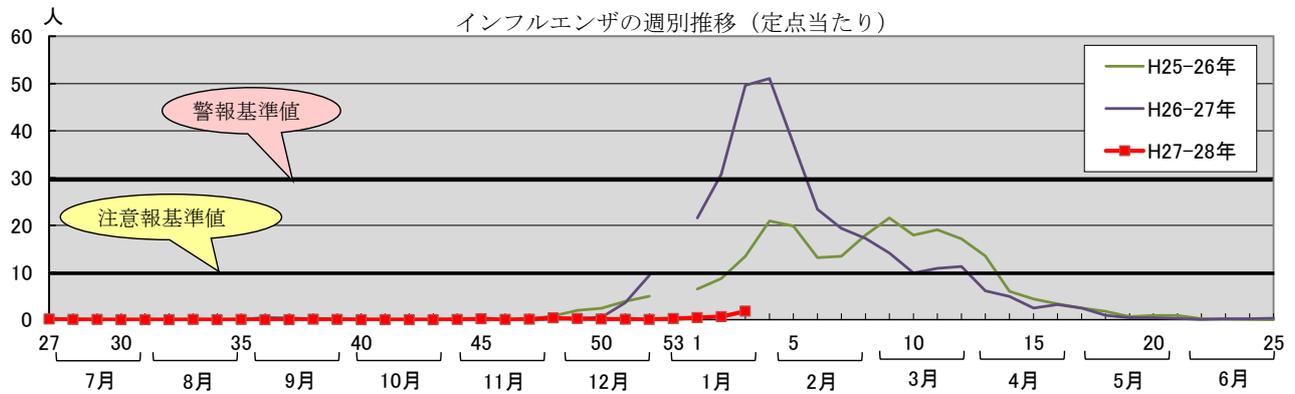
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

○インフルエンザ 第3週：1.79（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.79（前週0.63）と増加しています。地域別にみると、高知市3.19（前週1.19）、須崎1.75（前週0.50）、中央東1.73（前週0.27）、幡多0.63（前週0.25）、安芸0.50（前週0.00）、で増加しています



○感染性胃腸炎 第3週：9.70（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり9.70（前週：9.10）とほぼ横ばいです。地域別にみると、須崎12.50（前週12.00）、中央西7.67（前週2.33）、中央東6.86（前週6.14）で増加し、幡多、須崎で注意報値を超えています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第3週：2.67 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.67 (前週 1.93) と増加しています。地域別にみると、高知市 3.73 (前週 3.18)、幡多 3.40 (前週 1.20)、中央西 3.33 (前週 1.00)、須崎 1.00 (前週 0.50) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、今週よりグラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
3	伝染性紅斑	10	女	幡多	human parvovirus B19 virus
3	上気道炎	1	男	中央東	Cytomegalovirus Human herpes virus 6
3	不明熱	2	女	須崎	Human herpes virus 6
3	無菌性髄膜炎	8	男	高知市	Human herpes virus 7
3	インフルエンザ	70	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
3	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Norovirus GII NT
3	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Norovirus GII NT
3	感染性胃腸炎	1	女	中央東	Norovirus GII NT
3	感染性胃腸炎	5	男	須崎	Norovirus GII NT
3	感染性胃腸炎	3	男	須崎	Norovirus GII NT
3	百日咳	43	女	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>
3	百日咳	10	女	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
1	上気道炎	1	女	中央東	Cytomegalovirus Epstein-Barr virus
2	上気道炎	7ヶ月	男	高知市	Cytomegalovirus
2	不明発疹症	11ヶ月	男	須崎	Epstein-Barr virus
2	インフルエンザ	59	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
2	急性気管支炎	1ヶ月	男	高知市	Rhinovirus
2	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Rotavirus group A G8

★全数把握感染症

第3週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	4	80歳代女	中央東
		1	5	90歳代男	高知市
		1	6	60歳代男	中央西
5類	後天性免疫不全症候群	1	1	40歳代男	中央東
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	2	80歳代男	安芸
		1	3	60歳代女	高知市
		1	4	80歳代男	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼのクリニック	インフルエンザA型2例（8歳女、52歳女）
		ロタウイルス感染症1例（2歳女）
		RSウイルス感染症3例（1ヶ月男、1歳男2人）
	高知大学医学部附属病院小児科	ロタウイルス1例（2歳男）
		RS肺炎1例（2歳女）
	おひさまこどもクリニック	RS患者急増（第2週3例→第3週13例） アデノウイルス扁桃炎1例（4歳男）
野市中央病院小児科	アデノウイルス咽頭炎1例（12歳女）	
早明浦病院小児科	1歳ノロウイルス感染性胃腸炎（家族で感染）4名 （保育園1歳児で流行）	
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎2例（1歳男、3歳女）
		ロタウイルス腸炎3例（5歳女、7歳女、8歳女）
		マイコプラズマ肺炎3例（7歳女、13歳男、39歳女）
	細木病院小児科	ロタ7例（0歳男、11ヶ月女、1歳男、2歳女、3歳男3人）
		ノロ7例（11ヶ月男、1歳男2人、1歳女、2歳女、3歳男、10歳女）
	福井小児科・内科・循環器科	RSウイルス感染症1例（1歳男）
		伝染性紅斑1例（5歳女）
		溶連菌感染症7例
	三愛病院小児科	インフルエンザA型4例 B型1例
	国立病院機構高知病院小児科	B型インフルエンザ、溶連菌感染症同時感染1例（13歳女） 感染性胃腸炎の1歳男児はロタウイルス罹患
高知医療センター小児科	ノロウイルス1例（11歳男）	
	ロタウイルス3例（2歳男女、3歳男）	
	病原性大腸菌3例（0ヶ月女、1ヶ月女、3ヶ月女） インフルエンザ1例（9ヶ月女）	
ふないキッズクリニック	インフルエンザ1歳女児は検査結果陰性。母親がA型感染したためインフルエンザと診断した。	
中央西	石黒小児科	単純ヘルペス1例（8歳女）
		マイコプラズマ肺炎1例（4歳女） アフター性口内炎1例（4歳男）
	くぼたこどもクリニック	帯状疱疹1例（2歳女） 溶連菌感染症1例（7歳男：須崎市） 感染性胃腸炎1例（9歳男：須崎市）
須崎	もりはた小児科	インフルエンザ4例 全例A型同じクラス 水痘1例（5歳女）※ワクチン1回スミ
幡多	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎1例（1歳男）
	さたけ小児科	マイコプラズマ肺炎1例（4歳男）
	渭南病院小児科	マイコプラズマ肺炎1例（4歳女）

★全国情報

第1週（1月4日～1月10日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核310例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症10例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎9例、A型肝炎2例、つつが虫病8例、デング熱9例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症14例

5類感染症：アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症15例、急

性脳炎7例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、後天性免疫不全症候群18例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症58例、水痘（入院例に限る）6例、梅毒38例、播種性クリプトコックス症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん3例

報告遅れ：パラチフス1例、つつが虫病2例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症5例、急性脳炎6例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘（入院例に限る）3例、梅毒17例、風しん1例

注目すべき感染症

◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

2015/2016年シーズンのインフルエンザの流行状況は、2015年第36週以降低水準で推移していたが、年末から定点医療機関当たりの報告数の継続的な増加が見られ（第51週：0.46、第52週：0.76、第53週：0.89）、2016年第1週（2016年1月4～10日：2016年1月13日現在）では定点当たり報告数は2.02となり、初めて全国的な流行開始の指標である1.00を上回った。定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を受診した患者数を推計すると、第1週は約13万人（95%信頼区間：12～14万人）となり、前週（約6万人）の推計値よりも増加した。2015年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約34万人となった。年齢別では、2016年第1週では、20代、30代、40代がそれぞれ約2万人、0～4歳、5～9歳、10～14歳、15～19歳、50代、60代、70歳以上がそれぞれ約1万人であり、成人にやや多い特徴がみられた。

基幹定点からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）の状況については、第36週以降20例未満で推移していたが、第51週から増加し、第1週は169例の報告であった。年齢別では、今シーズンの累積入院患者数は15歳未満が170例（37.9%）、70歳以上の高齢者が160例（35.7%）となった。

2016年第1週の定点当たりの報告数は、全都道府県で前週よりも増加した。国内のインフルエンザの定点当たり報告数をみると、2015年第49週まで沖縄県を除き1.00を下回っていたが、第1週の定点当たり報告数では、沖縄県（8.19）、秋田県（7.85）、新潟県（5.73）、北海道（4.84）、千葉県（2.49）、福島県（2.47）、岩手県（2.40）、鳥取県（2.31）、茨城県（2.29）、青森県（2.18）、滋賀県（2.17）、岐阜県（2.13）、埼玉県（2.06）の順となり、沖縄県以外では東日本の自治体から多くの報告がなされた。

インフルエンザウイルスの検出状況として、直近の5週間（2015年第50週～2016年第1週）ではAH3亜型、H1pdm09の検出割合がほぼ同程度で、次いで、B型の順であった（2016年1月13日現在）。しかし、年末年始の時期を挟み、検査数は少ないことから全体の傾向についてはこの時点で明らかではない。

例年のインフルエンザ流行は、11月末から12月にかけて始まり、1月末から2月上旬にかけてピークとなることが多いが、2015/2016年シーズンは例年と比較すると、流行の開始時期が、1カ月程度遅い。過去11シーズンで1月に入って流行入りの指標を超えたのは、今シーズン以外では2004/2005年シーズン、2006/2007年シーズンに観察されており、ピークが2月後半～3月にずれ込むなどの状況は観察されたが、ピーク時の定点当たり報告数についてはそれぞれ50.07（第9週）、32.95（第11週）であり、流行が低く推移したわけではなかった。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合、訪問を自粛してもらう等の工夫が重要である。なお、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。

.....

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第3週 平成28年1月18日(月)～平成28年1月24日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第3週					計	前週	全国(2週)	高知県(3週末累計)		全国(2週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/1/24	
インフルエンザ	インフルエンザ		2	19	51	2	7	5	86 (1.79)	21 (0.44)	20,369 (4.11)	137 (2.85)	30,397 (6.15)
小児科	咽頭結核熱			1				1	2 (0.07)	2 (0.07)	1,124 (0.36)	6 (0.20)	2,831 (0.90)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	6	41	10	2	17	80 (2.67)	53 (1.77)	7,428 (2.35)	191 (6.37)	14,260 (4.52)
	感染性胃腸炎		10	48	111	23	25	74	291 (9.70)	299 (9.97)	24,349 (7.71)	863 (28.77)	48,789 (15.47)
	水痘			2	5			1	8 (0.27)	15 (0.50)	1,491 (0.47)	34 (1.13)	4,258 (1.35)
	手足口病					1			1 (0.03)	()	129 (0.04)	1 (0.03)	289 (0.09)
	伝染性紅斑				3	4		1	8 (0.27)	8 (0.27)	2,542 (0.80)	19 (0.63)	5,174 (1.64)
	突発性発疹			3	3	1	2	1	10 (0.33)	7 (0.23)	1,432 (0.45)	24 (0.80)	2,674 (0.85)
	百日咳				1			2	3 (0.10)	1 (0.03)	37 (0.01)	4 (0.13)	78 (0.02)
	ヘルパンギーナ								()	()	65 (0.02)	()	111 (0.04)
	流行性耳下腺炎		3	1	8	2	1		15 (0.50)	22 (0.73)	2,793 (0.88)	58 (1.93)	6,603 (2.09)
	RSウイルス感染症		1	21	29			1	4	56 (1.87)	28 (0.93)	2,295 (0.73)	105 (3.50)
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	10 (0.01)	()	19 (0.03)
	流行性角結膜炎								()	()	504 (0.73)	1 (0.33)	1,199 (1.75)
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	11 (0.02)	()	20 (0.04)
	無菌性髄膜炎								()	()	16 (0.03)	1 (0.13)	31 (0.07)
	マイコプラズマ肺炎			1	3			3	7 (0.88)	6 (0.75)	341 (0.72)	18 (2.25)	771 (1.63)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				2				2 (0.25)	2 (0.25)	13 (0.03)	5 (0.63)	22 (0.05)
	感染性胃腸炎		1	1	12				14 (1.75)	3 (0.38)	86 (0.18)	24 (3.00)	145 (0.31)
計 (小児科定点当たり人数)		21 (9.50)	103 (13.45)	269 (21.46)	43 (14.06)	41 (18.75)	106 (20.23)	583 (17.60)			65,035	1,491 (46.34)	123,619
前週 (小児科定点当たり人数)		19 (9.25)	89 (12.26)	199 (16.96)	35 (11.53)	40 (20.00)	85 (16.65)		464 (14.94)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第3週					計	前週	全国(2週)	高知県(3週末累計)		全国(2週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/1/24	
インフルエンザ	インフルエンザ		0.50	1.73	3.19	0.40	1.75	0.63	1.79	0.44	4.11	2.85	6.15
小児科	咽頭結核熱			0.14					0.07	0.07	0.36	0.20	0.90
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.00	0.86	3.73	3.33	1.00	3.40	2.67	1.77	2.35	6.37	4.52
	感染性胃腸炎		5.00	6.86	10.09	7.67	12.50	14.80	9.70	9.97	7.71	28.77	15.47
	水痘			0.29	0.45				0.27	0.50	0.47	1.13	1.35
	手足口病					0.33			0.03		0.04	0.03	0.09
	伝染性紅斑				0.27	1.33		0.20	0.27	0.27	0.80	0.63	1.64
	突発性発疹			0.43	0.27	0.33	1.00	0.20	0.33	0.23	0.45	0.80	0.85
	百日咳				0.09				0.10	0.03	0.01	0.13	0.02
	ヘルパンギーナ										0.02		0.04
	流行性耳下腺炎		1.50	0.14	0.73	0.67	0.50		0.50	0.73	0.88	1.93	2.09
	RSウイルス感染症		0.50	3.00	2.64		0.50	0.80	1.87	0.93	0.73	3.50	1.89
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.03
	流行性角結膜炎										0.73	0.33	1.75
基幹	細菌性髄膜炎										0.02		0.04
	無菌性髄膜炎										0.03	0.13	0.07
	マイコプラズマ肺炎			1.00	0.60			3.00	0.88	0.75	0.72	2.25	1.63
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				0.40				0.25	0.25	0.03	0.63	0.05
	感染性胃腸炎		1.00	1.00	2.40				1.75	0.38	0.18	3.00	0.31
計 (小児科定点当たり人数)		9.50	13.45	21.46	14.06	18.75	20.23	17.60			46.34		
前週 (小児科定点当たり人数)		9.25	12.26	16.96	11.53	20.00	16.65		14.94				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869